

奥武蔵上名栗 湯ノ沢ボルダー

令和元年7月6日 RCT/K

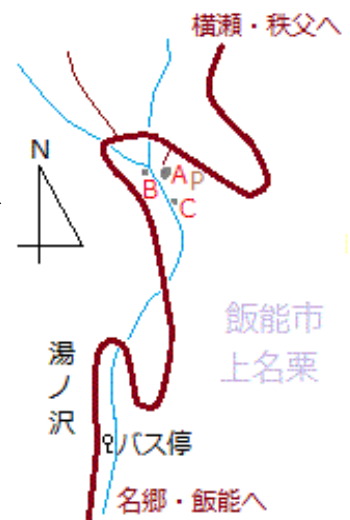
先月実家に帰省中に体調を崩し、先日帰京してからも快復せず、咳が止まらず、関節が痛む状態が続いていたが、漸くPCに向かって作業をする程度なら可能となったので、以前登ったボルダーの記録や動画などを纏めている。

さて、このボルダーは今までに何回となく通りがかり、何時も見ていたのだが、誰かそのうちにトライするのだろうか、何時も思いながら通り過ぎていた。今年4月の実家への帰省時に、ちょっと気になって、名栗から秩父に抜け、誰か登っているだろうかを確認してみた。

状態は昔確認した時のままで、誰もトライしておらず、相変わらずユキノシタと苔に覆われていた。その時は、掃除とゴミ拾い、簡単な課題のトライをしたが、課題が幾つか残ってしまい、次のトライは5月の一時帰京時の時となってしまった。できた課題は、身体の故障もあって厳しいムーヴは避けているので、簡単に登れるもののみであり、難しい課題が数本残ってしまっている。今後、もしトライしたい人がいたらやっても構わない。

岩は硬くしっかりしており、岩質はチャートのように思うが、ちょっと違う感じもする。高さは3m程あるが、課題は実質2m程である。

アクセスは飯能から名栗方面に入り名郷から横瀬に向かう。湯ノ沢の集落を過ぎて少し先で、沢が2本合わさる地点のカーブの所から岩の頭がちょっと見える。車はカーブを過ぎた先の右にちょっとしたスペースがある。大型車がすれ違う際の待避所的なところなので、なるべく端に寄せて駐車した方が良い。アプローチは道路から下れば直ぐである。

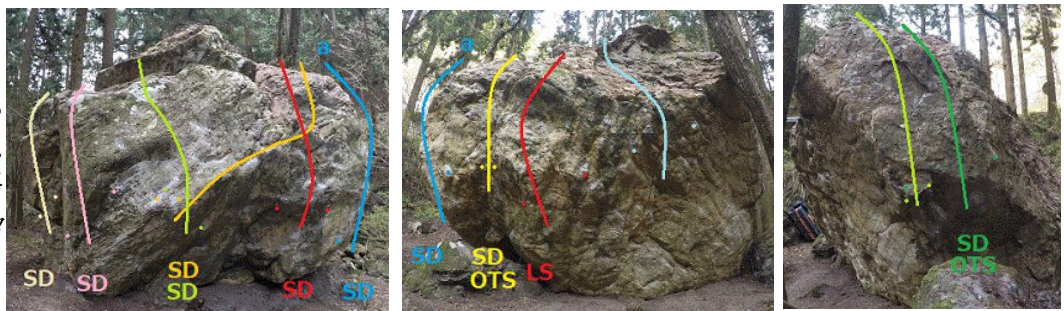


《課題紹介》

●A 岩

トポ左:道路側 トポ中央:川側 トポ右:下流側

高さはないが、いろいろとラインが取れて遊べる。オレンジライン、青ライン(a 道路側と川側のコンタクトライン)と川側の赤ラインが



ムーヴ的には面白い。

道路側の赤ラインは、右手は顕著なカチ、左手はリップより下の丸いアンダー気味のホールドからスタート。それより左のホールドを使用する課題は未解決。また、川側の赤ラインのSDと、前傾フェイスの水色ラインのSDは未解決である。

●B 岩

トポ左:B岩 トポ右:C岩

沢が合流するところにある小さな岩。易しい課題が2本ある。水量が増すと、多分取付けなくなる。

●C 岩

下流にある2m弱の、硬いが少々脆いフェイス。スタートでカチを取る1手目がちょっとパワーがいる。左の縦ガバからSDスタートで直上するラインは未解決。

